

中南米

アルゼンチン

概要：2013年3月に開始した青少年健全育成教育、情操教育を行ってきた大学、公共施設で、継続してエイズ予防教育、人格教育を行なうようになり、2016年よりツクマン州、ブエノスアイレス市・州の地域と学校を中心にエイズ予防・人格教育のみを推進していくことになった。

教材は「エイズ時代に生きる」のスペイン語版と自己抑制講義「アモール・ブーロ」のテキストを使用。



サン・ミゲル・デ・ツクマン市 No.5 技術学校にて授業

実施状況	実施場所	参加者	参加人数
2017	ツクマン（技術学校・国立技術大学・政府機関・ホテル）、サルタ、フバイ（技術学校）、ブエノスアイレス	教師・学生・父兄・学校関係者・有識者・政府機関関係者	657
2018	フバイ、ツクマン、コリエンテス、バンダリオサリ、サルタ、リドロ（キンテロス学校）	友人・知人・学生・VIP/NGO リーダー・州議員・	750

ベリーズ

概要：ベリーズでは、13歳の80%がすでに性交渉を行っているという統計があることから、早期のエイズ予防教育が必要と考え、WFPでは、2013年よりエイズ予防教育を実施している。国が行っているコンドーム教育は対処法にしかならず、専門的な知識を教えるエイズ予防教育が必要とされている。

アメリカから講師を招き、「クリーン・スレート・プログラム」の教材を使用し、小学校や中学校でセミナーを開催している。

小学生には「私の体は大切（My body is precious）」という絵本を使って「良いタッチ」と「悪いタッチ」を具体的な例をあげながら、将来の夢をかなえるためには自分の身体を大切に守らなくてはならないということを教えている。

中学生にはアルコールやドラッグが脳に与える影響やSNSなどの危険性、さらに10代の妊娠がもたらす問題など、映像を使って講義している。

実施状況

【2017】

- 10月、首都ベリーズ・シティの3つの学校において、エイズ予防教育セミナーを実施。206人の小学5年生から中学生までが参加。



セント・ジョン・ヴィアニー・RC・スクールにてセミナー

- E.Pヨーク中学校はベリーズ・シティ市内で最もレベルの高い学校だが、2人の女子生徒が妊娠・出産して復学していた。

【2018】

- 10月10日、ベリーズ・シティのサミュエル・ヘインズ・インスティテュート・オブ・エクセレンス学校にて、ドミニカ共和国から講師を招き、75人の小学生を対象にエイズ予防教育と人格教育セミナーを実施。
- 10月12日、ベリーズ・シティのセント・ジョン・ヴィアネイ・RC・スクールにて、4年生86人、5年生65人、6年生84人を対象に、ドミニカ共和国の講師によるエイズ予防教育と人格教育セミナーを実施。

東ヨーロッパ

ベラルーシ

概要：近年東欧地域でHIV感染が爆発的に拡大しているため、政府もエイズ対策に力を入れている。HIV感染が拡大している現状を懸念し、チェルノブイリ原発事故による放射能に対する危機感と共に、心身両面の教育の必要性を提案。「エイズ時代に生きる」のロシア語版を使い、エイズ予防教育と自己抑制教育のセミナーを、現地NGOの青年スタッフの協力で実施。

実施状況

【2017】

- 現地スタッフが積極的に学校でのエイズ予防教育を進めており、合計13回で491人の生徒を対象に実施してきた。



チェチェルスク第2学校にてセミナー

- 10月17日、ゴメリのギムナジアにて、約100人対象のセミナーを視察。

【2018】

- 現地スタッフが合計8回で317人を対象に実施。
- 9月24日、ゴメリのチェチェルスク第2学校にて、78人対象のセミナーを視察。



折り紙教室



リコーダーのクラス

東ヨーロッパ ロシア

障害児及び病気療養中の子供たちへの芸術活動支援

概要：モスクワ市で、障害児や病気療養中の子供達のリハビリテーションの一環として、芸術教育活動を推進している慈善基金団体「パヴェーリ・ヴ・ミチトウ」を通して、2013年より絵画材料の支援、展覧会運営の支援を実施。

2014年より、日本で開催されている「世界の子供の絵画展」に支援している施設の子供達の絵を出品。

進展状況

【2017】

「パヴェーリ・ヴ・ミチトウ」の子供達の作品を「世界の子供の絵文化交流会」に6点出品。

【2018】

- 5月28日、「パヴェーリ・ヴ・ミチトウ」を訪問。折り紙教室を実施し、絵本と絵画材料とリハビリ道具購入のための支援金を寄贈。6人の子供達に「世界の子供の絵文化交流会」からの賞状と賞品も授与。
- 5月30日、リハビリテーションセンター「ケンタウルス」を訪問。折り紙教室を実施し、絵本と支援金を寄贈。
- 「パヴェーリ・ヴ・ミチトウ」と「ケンタウルス」の子供達の絵を「世界の子供の絵文化交流会」に9点出品。
- 6月2日、モスクワ中心部のツェレテリ芸術ギャラリーにて、「復活と希望財団」主催の子供達の芸術支援のイベントに参加。派遣員は、折り紙体験ブースを出展した。



賞状と賞品を授与

これから出品する
子供達の絵

その他実施国：アルゼンチン

中南米 ベネズエラ

音楽教育支援

概要：ベネズエラは政治が不安定で、インフレが激しく、月収は世界最低レベルで人々は生活を脅かされている。音楽は学校の教科にはないが、もともと音楽が好きな国民性もあり、学外での音楽教育には価値があると考えた。また、音楽は情操教育にもよいことから、子供たちに希望をもってほしいという願いもあり音楽教育の支援を決定した。

2014年2月に、首都カラカス内リベルタッド市サン・アグスティン・デル・ノルテ地区にある現地の青年ボランティア団体の会議室を借りて音楽教室「サン・アグスティン・ムシカル」を開講。WFP日本では2015年に音楽教室の運営支援を開始。

受講希望者は、火曜日と土曜日のオーディションに参加し、受講が決まる。

ソルフェージュ（読譜訓練）、ギター、リコーダー、伝統民族楽器（マンドリン、クアトロ、マラカス、アルパ、バンドラ）のクラスを週4日の午後、1時限45分授業を1日5時限実施。登録料無料、月謝約\$25。7～17歳は奨学金制度あり。自分の楽器がない場合は、貸し出す。

2016年にカラボボ州の州都バレンシアにも教室を開講し、伝統民族楽器クアトロ、ギター、リコーダーを教えている。

進展状況

【2017】

- 国の経済状況が劣悪で食糧確保が困難なため、数人の子供達は音楽を学ぶことを断念した。通い続けている子供や大人は厳しい生活の中でも音楽に喜びを見出し前向きに生きている。
- 学校で音楽の授業がないため、ソルフェージュの授業は人気がある。楽器を習いながらソルフェージュの授業を習う生徒が多い。
- 7月15日、ユーロビルディング・ホテルにてカラカス教室の発表会を開催。40人の生徒が日頃の練習の成果を披露した。110人が集まった。

【2018】

- **カラカス教室：**9月7日に前期発表会を開催し、45人の生徒が演奏、75人参加。12月15日に後期発表会を開催し、15人の生徒が演奏、50人参加。
- **バレンシア教室：**国の情勢が悪化しているため休止。

生徒数	カラカス教室		バレンシア 教室
	7～18歳	19歳以上	
2017	25	19	10
2018	32	18	—